

第2回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会議事概要

■日時：令和元年9月17日（火）10時00分～12時00分

■場所：草津市役所4階行政委員会室

■出席委員：

中川委員長、土山副委員長、重原委員、梅村委員、宮下委員、辻委員、東川委員、堀井委員

■欠席委員：

花澤委員、井上委員

■事務局：

【行政】 中村副部長、角課長、中立課長補佐、大野課長補佐、大溝主事

【(公財)草津市コミュニティ事業団】 諸岡氏

【(社福)草津市社会福祉協議会】 村山氏

【健康福祉政策課】 古野課長補佐

【資源循環推進課】 中島課長、矢野主査

■協働コーディネーター 阿部氏、仲野氏

■傍聴者：0名

1. 開会

【事務局】

本日は、令和元年度第2回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会に御出席いただきましてありがとうございます。本日の会議については、橋川市長とTALKCafé、審議会等委員選任状況C評価対応策およびD評価審議会概要、協働事業調査について報告をさせていただき、第2次草津市協働のまちづくり推進計画の骨子、協働のまちづくりLIVE市民フォーラムについて議論いただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2. 報告事項

(1) 橋川市長とTALKCafé

【事務局】

<資料1に基づき説明>

(2) 審議会等委員選任状況C評価対応策およびD評価審議会概要

【事務局】

<資料2、3に基づき説明>

【資源循環推進課】

男女比率及び公募委員比率共に未達成であった理由を説明させていただきます。

公募委員については応募のあった3名に面接を行い、条件を満たした2名の内、1名の女性が他の審議会の委員を務めていることが判明し、草津市市民参加条例規則第8条の兼職の制限のため、委嘱ができませんでした。その結果、平成29年7月1日に男性7名、女性2名の計9名を委嘱し、当初10名の予定が1名減の9名となりました。令和元年8月1日から委嘱した委員については、男性6名、女性4名、計10名を委嘱いたしまして、男性比率は60%、女性比率は40%、公募委員比率は20%となっています。

【委員長】

公募委員2人以外の8人の推薦団体はどんな団体であるか。

【資源循環推進課】

草津商工会議所とまちづくり協議会と啓発部門でごみ問題を考える草津市民会議、立命館大学、滋賀県立大学、南部環境事務所の所長、古紙を市内で一番回収している黒田紙業と一般廃棄物の収集業者として大五産業に入っている状況です。

【委員長】

構成委員それぞれの人数を教えてください。

【資源循環推進課】

学識経験者2名、市民代表4名、事業者代表3名、関係行政機関の職員1名です。

【委員長】

皆様から質問等はございませんでしょうか。

【D委員】

市長とTALKCaféの実施はとてもよかった。直接聞かないとわからないことがたくさんある。

団体の中において男女比率の課題があるということは、大きな課題である。

【G委員】

審議会の委員構成について、行政の退職者の方に参加を求めたら良いと感じた。

【F委員】

TALKCaféで公募委員の意見を聞く機会は良いことだと感じた。審議会委員の男女比率について、行政の退職の方にお問い合わせするという意見は良いと感じた。

【E委員】

市長と TALKCafé の参加者 15名の男女の内訳が知りたい。市民憲章については、もっと色んな PTA や諸団体に PR すれば良い。また、草津市民の歌も流す機会があれば良い。

審議会委員の男女比率の対応策について、「意見を述べられる委員候補者リストを作成して審議会への起用を図る」と書かれているが、本当にできるのかと感じた。

【G委員】

公募委員の面接の質問の最後に応募者が自由に話す時間を作るのは良い意見だと感じた。

【B委員】

橋川市長との TALKCafé は、参加者 15名の内、男性が4名いた。定期的に開催できたら良いと感じた。

資料2について、男女共同参画課で男女共同参画の視点を持った人たちのリストを作るということについては、男女共同参画課が実施する男女共同参画に関する講座等に参加いただき、学習を積んだ方がリストの候補者になるというものである。

【A委員】

公募委員に何を期待するのか伝えることはとても重要である。公募委員の役割が何なのかについて、改めて確認することで、誰を公募委員としてお願いするかというところも見えてくるのではないか。

【委員長】

公募委員の方は、「私は何を言ったら良いかわからない」とか、きれいに話さないといけないと考える必要はない。「よくわからない」と言うのも、的確な批判であり、構わない。気にせず、自由に発言していただきたい。

(3) 協働事業調査

【事務局】

<資料4に基づき説明>

【D委員】

単純集計結果の、教育委員会の事業について市民の割合が低いということが残念である。健康福祉部、子ども未来部のような部署でももう少し市民が関わる部分が上がらないと、市の事業全体として不安が残る。

【G委員】

5年後の目標として、市民の割合が上がる事業数が少ないことに疑問を感じた。協働のまちづくりを目指している以上、各部署がもっと上げたいという思いが値に出ないとおかしいのではないか。

【F委員】

行政が実施する方が効率が良いこともあるが、市民に任せることも大切であると感じた。

【E委員】

教育委員会の、主体毎の集計結果で、市民主導の事業数が現状8から5年後は19になっているが、市民主導の高い数字は何を意味しているのか聞きたい。

【A委員】

市民の主導性が高い事業はどのように実施し、誰が参加しているのか等を知ることによって、市民主導の事業が増えていくのではないか。市民主導の事業について、もう少し聞けたら良い。

【事務局】

教育委員会の主体毎の集計のうち、市民主導が8から将来的に19に増えることについては、これからヒアリングしていかないと詳細はわかりませんが、今後、地域の力をお借りしていきたいという思いの結果であると考えています。

【委員長】

制度を所管している部局は市民参画の余地がないと思込んでいるのではないか。上下水道部で協働の領域が現状で1つしかないのは残念である。上水下水は市民にとって大切な施設で市民参加で実施する必要がある。

【事務局】

今後ヒアリング等をとおして分析し、計画への掲載等について検討していきます。

3. 審議事項

(1) 第2次草津市協働のまちづくり推進計画の骨子

【事務局】

<資料5に基づき説明>

【委員長】

大きな変更は、現行計画の総括をしたこと、協働のまちづくりの現状を抑えたこと、「学ぶ、見える、つながる」という3つのキーワードで今後の基本的な方針を出したということである。現行の第2章よりもかなり内容的に踏み込んでいる。

【D委員】

具体的にいつから人口が減少すると予測されているか、グラフ等により分かれば良い。

全体の「学ぶ、見える、つながる」キーワードはとても良い。「学ぶ」というのは、知るだけでなく、「学ぶ」という様に踏み込んでいる。自分力と地域力の2つを挙げていることが、個人と団体が明確化されている。

中間支援組織については、実施している事業が掲載されているが、その効果性を分かりやすくするべき。未だに中間支援組織のことが認知されていない現状を考えると、行政ではなく、中間支援組織自身にアピールしたいことを落とし込んでいただきたい。

また、まちづくり協議会においても、入れない人がおられる中で、障害者や、外国人、高齢者等、誰もが参加できるというのが、協働であり、市民参加であると感じるので、計画に落とし込めたら良い。

【委員長】

共生社会や、それを実現するための社会的少数者に対する働きかけ等を書き込んではどうか。

【D委員】

個人の悩みを他人事ではなく、自分事にするためには、悩んでいる人が悩んでいることを言える社会でなければならないので、その部分について表現できたら良い。

【G委員】

参画意識を持ってもらうか方法を考えなければ、協働のまちづくりは進まない。

【E委員】

まちづくり協議会で様々な取組を実施していただいているが、やはり行政の御支援、サポートが大きな力を持っていると感じる。今後も、地域にアドバイス等していただいで、スムーズに活動できるようにしていただきたい。

【C委員】

どのようにして、次の世代の人を繋いでいくかが課題である。ラウンドテーブルについても、効果的に活用できたら良い。

【B委員】

まちづくり協議会については、リーダーになる人が民主的に運営することで、少人数の意見をしっかり聞いていくことが重要である。民主的に運営する組織になれば良い。

【A委員】

「学ぶ、見える、つながる」は良いポイントの置き方であるが、「学ぶ」目的を、自分の問題を自分で解決するためとすると、それができない人はダメな人間になってしまう。自分のことを自分で解決できない人はダメだという書き方はいかがか。自助はそうかもしれないが、生活の中で困ったことがあれば、本当に、まずは個人の力で対応するか。そもそもユネスコの生涯学習は、自分を充実させるため、自分を啓発させるため、自分の生活を向上させるための学びであり、自分で色々なことができるようになって周りに迷惑を掛けないための学びではない。自分が優れた人間になって地域を支えるための学びではない。

また、8ページの「見える」に関する記述に違和感がある。確かに、困りごとを共有する、困りごとを見える化するということは、地域の課題や困りごとを「見える化」することで、「それは、自分もやりたい」と思う人が増えることであって、当事者意識を根付かせるのではない。当事者意識と言うのは常にどこかにあって、それが発動するか発動しないか、どこで発動するかは人それぞれである。

【委員長】

自分力を高める部分の記述は、書き替えた方が良い。自分で自分の人生を決断し、選択できる能力の確立なので、自己選択能力でもある。つまり、自分で解決ができない時に、人に助けを求める能力でもある。今の記載では、まず自分の力で解決せよと言うのは踏み込み過ぎている。

また、「見える」の記述については、言い過ぎである。後継者がいないのではなく、活動している人たちが、後継者候補と出会えてない。後継になり得る人に、地域コミュニティというものに対する認識や理解の機会が与えられてないのである。関心を持ってもらう機会、あるいはさらなる情報の供給を行うべき。

【D委員】

まちづくりに参加する方は特定の方というのが現実である。それを、無関心なのか、参加できない状況にある方なのか。障害者の自立について勉強している中で、障害のある方は、自分のことを自分で決めることさえできない状況におられたので、反対に言えば、自分で困ったことを自分で考えることは喜びでもある。困ったことは、まずは、自分で考え、考えた時に何ができるかできないか、それが自己選択である。そして、最後に自己決定していく。このような段階を自分力、と私は捉えている。

【委員長】

行政と、中間支援組織の部分に人材の確保があるが、とても重要であるため、記述を加えるか、施策の加工改良を加えてほしい。生涯学習講座や、中間支援組織が実施している講座を全部体系化してほしい。地域の人材として、デビューしてもらうためには、これだけの学習が必要というコースや、ステップアップできるコース、人材として登場できるような道筋になっていくコースを作してほしい。それをまとめていって、コースを可視化していただきたい。教育委員会と中間支援組織が協議して整理してもらいたい。そのことを通じて、地域人材を開発し、いざなっていく政策を打ってほしい。

もうひとつは、まちづくり協議会は公共団体だと言う認識をもっと広めていくべきである。自治会町内会は任意団体であるため、まち協の運営を自治会の運営と同じやりかたでするとトラブルがおきる。民主的な運営により近づけるためのアプローチ、アドバイスを強力にしていくべき。

また、コミュニティ学習の強化をしてほしい。NPOの学習というのは、企業人は理解しやすく、簿記や経理の関係もさほどずれがないが、コミュニティは、役員が交替すれば、ゼロから組織を作らないといけない。組織編成能力が問われる。上から目線で偉そうなことを言ったら一発で人望を失うことの怖さや、物のいい方、言葉の使い方、物腰、声の強弱、笑顔、それ全て武器だと伝えていくことが重要である。

(2) 協働のまちづくり LIVE 市民フォーラム

【事務局】

<資料6に基づき説明>

【A委員】

確認ですが、事前の打ち合わせでは、ワールドCafé形式で、テーブルの入れ替えがある方法でしたが、変更があったのですか。

【事務局】

テーブルが多くても、3つできるかというところで、例えば、Bテーブルで計画の各主体の現状について話し合い、次にAテーブルで総括について話し合いをすることも考えられます。同じテーブルでじっくり話してもらう方が良いと思います提案させていただいています。

【A委員】

例えば、2章の2と3と3章の2という分け方で、2回転くらい実施する方が良いのではないか。計画の推進体制等について、パーツに分けて具体的な意見をいただいたほうが良いと考える。

【事務局】

委員の皆様の説明いただくため、進め方について、皆様の御意見を伺いたいです。

【委員長】

やり方が無駄にならないようにしたいというのが一つで、散漫にならないようにしたい。

【A委員】

例えば、Aのテーブルは、2章2の部分、Bのテーブルは2章の3の部分、Cのテーブルは3章2の部分、もう一つテーブルをつくるのであればDのテーブルは4章の部分のように、それぞれ分野を分けて、意見を出したいテーブルに行っていただいて話し合う。それを2回転か3回転する。説明員は少なくとも、委員と行政職員で、2人はいる。

【事務局】

御了承いただければ、その形式でお願いします。

【委員長】

同じことを2回実施するのか。

【事務局】

1回目と2回目は内容と進め方は同じになります。

【委員長】

テーブル毎にテーマを設定するのが良い。行政がテーブルに付く委員を決めても良いのではないか。

【A委員】

時間が1時間というのは短いのではないか。

【委員長】

最低1時間半、余分みて2時間取っておいた方がいいのではないか。

【事務局】

時間を組みなおして、最大2時間という枠の中で調整させていただきます。

【A委員】

勉強会で計画についての理解を深め、市民の生の声を吸収したい。

【委員長】

行政職員と、ここの委員が必ず配置について、印象は良いと思います。

【事務局】

10月18日の勉強会にLIVE市民フォーラムの資料を再度提示させていただきます。

【委員長】

広報の関係から言ったら10月1日の広報に載るのか。

【事務局】

10月1日の広報くさつに載る予定です。チラシは当委員会終了後すぐに各施設に配布していきたい考えています。

【委員長】

副委員長がおっしゃったように、ワールドCafé方式で実施します。テーブルはできたら4つ以上。時間は、1日は19時から20時半、2日は、10時から11時半にしましょう。場所は、事務局で決定していただきたい。

【事務局】

それでは、2日目は、南草津駅前の交流プラザで実施します。

【E委員】

継続して委員を兼ねてくださっている方に説明をお願いしたい。

【D委員】

計画に責任が持てて、良い機会である。

【委員長】

以上を持ちまして、本日の審議事項を終了します。事務局に進行をお返しします。

【事務局】

ありがとうございます。それでは、これを持ちまして、第2回草津市協働のまちづくり・市民参加推進評価委員会を閉会させていただきます。

4. 閉会
